

< 今日の説教のポイント ルカによる福音書 22 章 31～34 節 >

### 1 (31) 神様がサタンの願いを聞き入れられる？ その真意は？

興味深い表現です。ユダの裏切り (22:3) に続いて、弟子たちが「誰が一番偉いか」 (24) と争った時に、そしてすぐこの後にペトロが見せる姿も思いながらイエス様はこう表現されたわけです。つまり、弟子たちの信仰に隙が生じた時、気の緩みが生じた時に、こう言われたのです。しかし同時に、それは「ふるいにかける」ことでもあると言われています。預言者アモスは、イスラエルの民が主なる神に背いて滅びる中で本当の信仰者が生まれることをこの表現で語っています (アモス書 9:9)。このことは次に言われるイエス様の言葉につながって行きます。31 節の意味を深く知った者は、次の 32 節で語られるイエス様の言葉にこそ、より耳を傾け、深く聞き取らなければなりません。

### 2 (32) イエス様も神様に祈られ、それが聞かれることはより確か！

イエス様は今の弟子たちの状態を知っておられて 31 節のように弟子たちに語られました。しかしそれに続いて、「私はあなたのために、信仰が無くならないように祈った。だから、…」とペトロに告げられたのです。ここでペトロだけ別人と考えてはなりません。ペトロもこの後、おごり高ぶった恥ずかしい姿を示すからであり、イエス様はそのこともこの時知っておられたからです (33-34)。

今の私たちは、恥ずかしい姿を示したペトロがさらにその後で示した姿に倣う者となるのが大事なのです。それこそ、「あなたは立ち直ったら、兄弟たちを力づけてやる」姿です。ここで「立ち直す」と訳されている原語の意味は「向きを変える」です。聖書が伝える真の神様は、このように言って下さる御子イエス・キリストを私たちの所に送って下さった神様なのですから、私たちがどんなに恥ずかしい姿 (言ったりやったりしてはいけない言動) を示してしてしまっても、そのことに気づいた時に方向転換して神様の方向に向き直し、神様が求めておられることにお応えして生きて行こうとするなら (ペトロの場合は、「兄弟たちを力づけてやる」こと)、それを喜び、受け入れ、共に歩んで下さるお方なのです。洗礼は神様のこの恵みが分かった時に授かるものであり、そのために神様は私たちに教会を、礼拝を、そしてそこで聖書の解き明かしを聞く機会を与えて下さったのです。